

ロープライト (2cm×200cm)	太田ステージ段階	全
		
<p>1 教材の紹介</p>	<p>光遊びに用いる玩具は衝撃に弱い物が多いため、「重度のお子さんが自分から働きかけられる」「手に持って振ったりより近くで見つめたりできる」という点から考えた。手に何かを持つと口に入れてしまったり、力加減が難しかったりするお子さんでも、安全に扱うことができる。市販のロープライトは高価だが、安価にできた。</p> <p>イルミネーションが輪になっていたので、一度切ってホースに通してからエナメル部分を切り落として連結し、断熱テープを巻いたり、曲がったホースにイルミネーションを通すのはかなり摩擦があったので、ホースを何分割かにして通したりした。</p>	
<p>2 使い方</p>	<p>鈴をつけ、音楽に合わせて3～4人で持ち、振って楽しむ。(光に集中させたい場合は、音楽・鈴はなしで使用。)</p>	
<p>3 おすすめポイント ・どんな力がつくか。</p>	<p>光遊びは、周囲を暗くして刺激をなくし光のみを見るようにすることで、重度のお子さんの注視や追視する力を把握したり、回数を重ねてその力を伸ばしたりすることができる教材である。点滅させるとより注意を引くことができる。ライトの色を変え、どの色が見やすいのかなどを試すと良い。音楽に合わせて動かすと楽しい演出ができるが、見る力を把握したり伸ばしたりを狙う場合は音楽はない方が良い。友達と輪になって持つことでコミュニケーション面での楽しさも味わうことができる。重度のお子さんだけでなく、音楽に合わせた光遊びや、スノーズレン教材として使うなら太田ステージの全段階のお子さんが対象になり得る。</p>	